



駿府と今川氏

第3回

三代將軍義満・六代將軍義教の富士遊覧

「国堺の重鎮」と 言われた今川氏

六代將軍足利義教が駿府まで来て富士山を見たことはよく知られているが、それより前に三代將軍義満が同じように駿府まで来たことはあまり知られていない。しかし、義教の富士遊覧のときの準備にあたり、義満のときの例を参考にして準備を進めたことが『満濟准后日記』に見えるので、義満も駿府まで下向していたことは確実である。

義満は嘉慶二年（一三八八）九月、義教は永享四年（一四三二）九月に、それぞれ富士遊覧と称して駿府まで下っているが、富士遊覧は表向きの理由で、二人とも本当の狙いは別なところにあった。

周知のように、鎌倉時代は幕府が鎌倉に置かれ、その出先機関としての六波羅探題が京都に置かれていた。室町時代はその逆で、京都の室町に幕府が置かれ、出先機関の鎌倉府が鎌倉に置かれていた。

鎌倉府のトップが鎌倉公方で、二代將軍足利義詮の弟基氏の子孫がその職を世襲していたのである。そして、何代か経つうち、將

軍と鎌倉公方は対立し始めた。

將軍管轄の一番東寄りの国が駿河であり、鎌倉公方管轄の一番西寄りの国が伊豆であった。そのため、その堺となる駿河国の守護今川氏は「国堺の重鎮」と呼ばれるのである。

駿府の望嶽亭は どこにあったか

將軍がわざわざ駿府まで来たのは、鎌倉公方足利氏の独立的動きを牽制し、威嚇を加えるためであった。義満のときもそうだったし、義教のときも同様である。

ただ、迎える今川氏としては、名目上は富士遊覧ということになっているので、それ相應の接待をしなければならぬ。義満のときの泰範は特別な建物を建てたことを示す史料はないが、義教のときの範政は、「將軍御成」のためだけの特別な建物を建てさせたことがいくつかの史料によって確かめられる。名前もそのものずばり、望嶽亭である。

このときの様子は、義教に随行した公家や僧侶の日記および紀行文に詳しく書かれ、義教が詠んだ歌も伝えられている。すなわち、

みずばいかで思ひしるべき言の葉も

及ばぬ富士とかかねて聞しを

というものであった。

ただ、望嶽亭がどこにあったかは残念ながら不明である。今川館があったと考えられる現在の駿府公園からは前方の山が少し邪魔をしている感じがあり、一説に、現在の静岡市の川辺町から新川の辺りだったのではないかとも言われている。



▲静岡市駿河区からの富士山の眺め

撮影：水野 茂